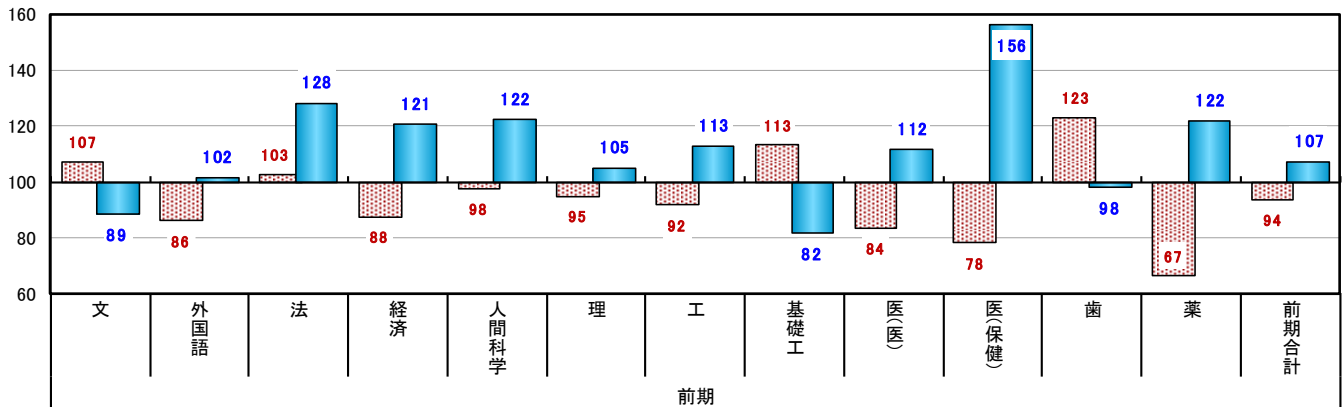


大阪大：大学全体では4年ぶりに増加、減少は3学部のみ

前期：+510人

※前年度の志願者数を100とする指数

■2021年度/2020年度 ■2022年度/2021年度



主な入試変更点 第1段階選抜基準変更：基礎工<前>…約3.0倍→学部全体で約2.9倍

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期のみの募集で510人(107)のやや増加で4年ぶりに増加。共通テストの平均点ダウンにより、上位の京都大からの志望変更先として狙われたことと、比較的個別試験が難問なので個別試験での逆転を考える層が、共通テスト重視配点の神戸大への志望変更を行わなかった影響があった。文理別では、文系は261人(109)の増加で、理系は249人(106)のやや増加。学部別(医は学科別)では、減少したのは3学部のみで、増減が目立ったのは医(保健)(156)、法(128)、人間科学(122)、薬(122)、経済(121)が大幅増加。一方で、基礎工(82)が大幅減少。

＜前期日程＞

- 文(89)は、2年連続増加の反動で減少。
- 外国語(102)は、系統への低い人気から前年度減少の反動は小さく微増に留まった。専攻別では、25専攻中で増加は12専攻、減少は12専攻、前年度と同人数が1専攻と増減が均等に分かれた。増減が大きかった上位4専攻は、(外国語/デンマーク語)(168)、(外国語/モンゴル語)(155)、(外国語/スウェーデン語)(144)、(外国語/フィリピン語)(143)がいずれも40%以上の増加、一方で(外国語/アラビア語)(67)、(外国語/日本語)(73)、(外国語/ヒンディー語)(78)、(外国語/イタリア語)(79)はいずれも20%以上の減少。
- 法(128)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、系統への人気が高い(法)(128)は大幅増加で2年連続増加。(国際公共政策)(129)は2年連続減少の反動で大幅増加。
- 経済(121)は、2年連続減少の反動で大幅増加。
- 人間科学(122)は、3年連続減少の反動で大幅増加。志願者数は3年ぶりに300人を上回った。
- 理(105)は、やや増加で3年ぶりの増加だが、志願倍率は6年連続で3倍を下回った。学科・コース別では、(生物科学/生命理)(75)のみが前年度大幅増加の反動で大幅減少。他の4つの学科・コースはいずれも増加で、特に(化学)(111)は10%を超える増加。
- 工(113)は、前年度減少の反動で増加。学科別では、増加した(電子情報工)(127)、(環境・エネルギー工)(122)、(応用理工)(120)の3学科はいずれも20%以上の大幅増加。
- 基礎工(82)は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、前年度は全ての学科が増加したが、一転して4学科全てが減少した。特に、(システム科学)(76)、(電子物理科学)(79)はいずれも20%を超える大幅減少。
- 医(医)(112)は、前年度大幅減少の反動で増加、共通テストの平均点大幅ダウンの中で、共通テスト500点：個別試験1,500点という個別試験重視配点が個別試験に自信を持つ層に支持されたことも増加要因。この結果、志願倍率は2.5倍→2.7倍にアップし、過去5年間では2番目の高倍率で厳しい入試だった。
- 医(保健)(156)は、前年度大幅減少の反動で50%を超える大幅増加。志願倍率は2.4倍にアップし、過去5年間で最も高倍率となった。専攻別では、3専攻全てが大幅増加で、特に(保健/放射線技術科学)(207)は倍増以上。
- 歯(98)は、前年度大幅増加の反動はなく前年度並。
- 薬(122)は、前年度は個別試験に小論文と面接を追加したことによる負担増から大幅減少したが、その反動で大幅増加。しかし、志願者数は200人台には達しなかった。